

事 務 連 絡

平成22年1月19日

都道府県  
各 指定都市 保育所・認可外保育施設指導担当者 殿  
中核市

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課保育係

保育所及び認可外保育施設における事故の報告内容について

保育所および認可外保育施設における事故については、「保育所及び認可外保育施設における事故の報告について」（平成22年1月19日雇児保発0119第1号厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知）により、報告いただくこととしているが、その報告の内容について別紙1のとおり例示するので、こちらを参考の上、可能な限り詳細な報告をいただけるようお願いする。

なお、当報告様式の内容が揃わない時点であっても、状況を把握した時点で当職宛第一報を連絡願いたい。更に、報告様式提出後であっても状況に変化が起きた場合には適宜報告をいただくようお願いする。

また、事故に対する指導については、別紙2を参照の上、一層の指導の徹底をお願いする。

## 保育所及び認可外保育施設 事故報告様式(例)

認可・認可外		〇〇年 〇月 〇日				
自治体名	〇〇県〇〇市		施設名	〇〇保育園		
所在地	〇〇市〇山1-2-2		開設(認可)年月日	〇〇年 〇月 〇日		
設置者	〇〇法人〇〇会		代表者名	〇〇 〇〇		
入所児童数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	計
	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
保育従事者数	〇〇名		うち保育士	〇〇名		
うち常勤保育従事者	〇〇名		うち常勤保育士	〇〇名		
保育室等の面積	乳児室 〇 m <sup>2</sup> ・ほふく室 〇 m <sup>2</sup> ・保育室 〇 m <sup>2</sup> ・遊戯室 〇 m <sup>2</sup>					
事故発生日時	〇〇年 〇〇月 〇〇日 〇〇時〇〇分頃					
児童年齢・性別	3歳ヶ月 男児		入所年月日	〇〇年 〇月 〇日		
病状・死因等 (既往症)	溺死					
	既往症：気管支系の疾患		病院名	〇〇市立〇〇総合病院		
発生時の体制	3歳児 18名		保育従事者	3名(保育士 2名)		
発見時の児童の様子	水深30cm位の足洗い用のたらいに俯せで発見。顔は青白いが、水を吐いた後、息はあった。(通常、足を洗ったら即座に水をすてるところがそのままの状態であった)					
発生状況	時間	内 容				
	(当日登園時からの健康状況、発生後の処置を含め、可能な限り詳細に記入)	8:00 母親に連れられて登園、微熱があるので薬を預かる 8:15 保育室内でブロック遊び 8:30 確認：ブロック遊び 8:40 他の児童と保育室を出てホールへ 8:50 確認：鬼ごっこ 9:00 散歩の準備 9:10 3歳児18名、保育従事者3名で散歩へ出発 2列に整列し、先頭と最後尾に保育士、中間に保育従事者 目的地の林に到着(虫探しなど) 10:30 2列に整列し園へ 10:50 園庭に到着 人数確認 10:55 4、5歳児と合流し、園庭で遊ぶ 1名の保育士はケガをした児童の治療 残りの保育士と保育従事者が園庭で観察 11:15 当該児童が居ないのに気づく 11:20 足洗い用のたらいで児童を発見 救急車を呼びながら人工呼吸 11:30 救急車到着 〇〇市立〇〇総合病院へ搬送 12:50 搬送先の病院で死亡確認				
発生後の対応 (報道発表予定)	15時すぎ 警察による事情聴取 事故翌日17日 市が事故報告の記者会見実施(別紙公表資料参照) 保育所において保護者への説明会実施					

## 保育所等における事故防止のための指導事項について

### 1. 基本原理

- ① 子どもの生命の保持及び安全の確保は保育所等の責務であり、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、事故防止・安全対策を講じること。その際、保育所保育指針解説書及び保育所における自己評価ガイドラインに示されている「子どもの健康及び安全」に関する事項を踏まえ、全職員の共通理解・共通認識の下、日々継続的に取り組むこと。

### 2. 事故防止の方法

- ① 乳幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、子どもの行動や予想される事故等を見通し、事故防止マニュアルや安全点検表を作成して、日々及び定期的に施設内外の点検を行い、安全の確保を図ること。
- ② 子どもの思いがけない行動や、あと一步で事故になるところだったという事例（インシデント）を記録、分析し、事故予防対策に活用すること。
- ③ 地域や保育所間で、子どもの健康・安全に関わる情報等を共有するとともに、講習や研修を通して事故防止のためのスキルアップを図ること。
- ④ 市町村の支援の下に、日頃から地域の医療機関等との連携を図り、必要な協力が得られるようにすること。

### 3. 事故防止の観点

各保育所において、以下の例を参考としながら事故防止の観点を明らかにする表を作成することが望ましい。

- ① 子どもの年齢・発達とそれに伴う危険及び配慮点を明らかにする。(①)
- ② 保育室、園庭、トイレや廊下などにおける危険及び配慮点を明らかにする (②)
- ③ 子どもの遊びや活動に伴う危険及び配慮点を明らかにする (③)

#### ①

	考えられる事故	環境整備	保育士等の配慮点
例	・睡眠時の窒息(布団がかかる。 よだれかけ等のひもが絡まる等)	・寝具とその周辺の 点検	・常に子どもを確認 ・睡眠時の観察・点検
0 歳	・吐乳による窒息	・玩具・用具の点検	・仰向けに寝かせる
歳	・小さなものや異物の誤飲	(大きさ、素材、破損 状態、清潔・安定感 等)	・すぐに支えられる位置にい る。
か	・ベッドや椅子等からの転倒転落		・子どもや保育士の足下に十分 気をつける
ら	・ドアなどに手をはさむ		・洗面器、たらい、流し等の水 をためない等の配慮
1 歳	・少量の水で溺れる。 ・低温火傷や脱水症 (・乳幼児突然死症候群SIDS) 等	・転んだときに二次 的なケガにならない 環境設定 ・水まわりの点検 等	・ミルクや沐浴の湯等の温度調 節と確認 等

②

	考えられる事故	環境整備	保育士等の配慮点
例 保 育 室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震などによる家具等の転倒</li> <li>・机や棚の角に頭や体をぶつける</li> <li>・引き出しやドアに手をはさむ</li> <li>・誤飲による窒息</li> <li>・破損した玩具によるケガ</li> <li>・子ども同士がぶつかる</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒防止装置</li> <li>・必要に応じて、ガード等による工夫</li> <li>・誤飲しやすいものがないかの点検</li> <li>・子どもの視線・動線を考慮した環境設定</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の安全点検と環境整備</li> <li>・子ども一人一人の居場所や他の保育士等の位置を把握</li> <li>・遊具や用具の取り扱い方を繰り返し子どもに伝えるとともに管理する(特にハサミ、ひも類、箸、歯ブラシ等)</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
例 園 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型遊具からの転倒・転落</li> <li>・子ども同士の接触や衝突</li> <li>・段差や障害物につまずいての転倒</li> <li>・蜂や毛虫による被害</li> <li>・水たまりや洗い桶などでの窒息</li> <li>・プール遊びでの事故</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型遊具とその周辺の点検</li> <li>・遊びや活動の仕切りやスペースの確保</li> <li>・虫などの被害防止</li> <li>・水まわりの点検</li> <li>・プールの安全管理</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びや遊具で遊ぶ機会を多く取り入れる</li> <li>・遊び方やそのルールを丁寧に伝え、守れるようにする</li> <li>・季節に応じた対策を講じる</li> <li>・子どもの人数確認を行う</li> <li>・水遊びの手順と役割分担を徹底する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

③

	考えられる事故	環境整備	保育士等の配慮
例 散 歩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故</li> <li>・路上での転倒</li> <li>・公園の遊具などでの転倒・転落</li> <li>・動植物によるケガや被害(蜂にさされる、犬にかまれる、草にかぶれる、動物の糞等)</li> <li>・日射病・熱射病</li> <li>・空き缶や落ちている物を拾って口にする</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引率者、人数などの十分な体制</li> <li>・散歩経路や散歩先の公園等の状況把握</li> <li>・動植物に関する知識や対処の仕方の把握</li> <li>・帽子をかぶる</li> <li>・救急用品</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数確認・安全確認</li> <li>・保育士等の位置や子どもへの注意の促し</li> <li>・交通ルールを伝える</li> <li>・遊ぶ場所や遊具の安全確認</li> <li>・遊びのルールや遊ぶ範囲を確認し守るようになる。</li> <li>・子どもの体調の変化等に留意。水分補給する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
例 給 食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼・嚥下が不十分であることによる窒息</li> <li>・誤飲・誤食(アレルギー児等)</li> <li>・フォークや箸などによる事故</li> <li>・椅子からの転倒</li> <li>・配膳時、鍋の汁物がこぼれ火傷する</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に合った食事内容(大きさ・固さ)</li> <li>・誤飲誤食を防ぐための表示やトレイ</li> <li>・配膳環境も含めた食事環境の整備</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと視線を合わせ食事を進め、しっかり飲み込んだかを確認。食べ物を一度に口に入れすぎないようにする。</li> <li>・アレルギー対応の把握</li> <li>・配置、動線への配慮</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>